

平成31年度4月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成31年4月1日（月）午後2時00分～2時30分
場所 市役所2階 第1委員会室
出席 市政記者クラブ9社

会見内容

1. はじめに（1項目）

1. 新年度に向けての抱負などについて

- 新年度を迎えて最初の記者懇談会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
- 今年度の予算編成では、まちづくり基本構想の目指すべきまちづくりの実現に向け、「重点戦略」である、まちの活力を高める経済活性化を最優先とし、人材育成、都市機能向上の3つの分野に重点を置き、雇用の創出や企業の持つ力を強化することにつながる取り組みに、投資という言葉を使いながら進めているところであります。
- 市民生活に関わりましては、幼児教育にかかる費用の無償化や多子世帯への保育料の負担軽減、医療費の無料化の対象を小学校就学前まで拡大する等があります。また、今年度から新たに、子育て支援拠点センターにおける利用者支援事業や市立釧路総合病院との連携による産後ケア事業を進めてきたところであります。このようなものを行っていきながら、しっかりとやっていきたいと考えております。
- 本日、平成に代わる、新元号が「令和」と発表されました。新しい時代の幕開けをする訳であります。しっかりとした節目を大事にしながら、新年度も職員一体となって進めていきたいと考えているところであります。

2. 話題提供（2項目）

1. 高齢者外出促進バス事業の実施について

- 「高齢者外出促進バス事業」であります。
- 6月1日（土）から始まるこの事業は、70歳以上の方々に路線バスを利用して外出していただくことで、社会参加、生きがいづくりや健康づくりを推進することを目的としております。また、わかりやすい運賃設定や何度でも利用可能にするなど、バス利用を支援し、地域公共交通の維持や運転免許証の自主返納を促進する二次的効果も図られるものと考えております。
- 助成内容につきましては、乗車証利用による方法と定期券購入助成の二通りあります。
- 乗車証利用による方法は、5月20日（月）から、市内郵便局で受け付けを開始します。申請の際は、個人番号カードや健康保険証などの公的機関が発行した身分証明書

と、負担金500円を持参し、申請していただくと、1年間有効な乗車証「おでかけパスポート70」を交付いたします。

この乗車証をバス降車時に提示することで、指定するエリア内を1回の乗降あたり運賃100円で利用することができます。

- なお、運賃の例外として、阿寒線の一部の利用の際は、1回あたりの運賃500円の区間があります。
- 利用可能エリアは、市内の全停留所の他、白糠町内や釧路町セチリ太方面など一部市外の停留所となっております。
- 定期券の購入助成につきましては、有効期間1カ月あたり1,000円の助成を行うというものであります。これは、バス会社が販売する既存の高齢者向けエリア定期券に対する助成ということであります。
- このような形の中で、目的のとおり、ぜひ、バスを利用し、外出していただきながら、社会参加を促進し、色々な分野の中に顔を出すために、お出かけいただきたいと考えております。

2. くしろ湿原ノロッコ号出発式及び運行30周年に関する取り組みについて

- 続いて、「くしろ湿原ノロッコ号」についてであります。
今年4月27日（土）から10月14日（月・祝）までの期間で運行される予定となっております。運行開始日の4月27日（土）に釧路駅にて出発式が開催されます。当日は、くしろ蝦夷太鼓保存会による、太鼓でのお見送りなどを企画しているところであります。
- 今年度の運行でノロッコ号は30周年を迎えることとなり、これを記念してオリジナルヘッドマークでの運行や、川湯温泉駅までの延長運行などが予定されており、釧路市を含めた沿線自治体もJR北海道と連携しながら進めていきたいと考えております。
- この取り組みの一環として、色々なおもてなしイベントなどを実施することになっております。
- 弟子屈町では、川湯温泉駅まで延長運行を行う、5月25日（土）と26日（日）に、また運行30周年にちなんで6月30日（日）は釧路町、7月30日（火）は標茶町、8月30日（金）は釧路市でそれぞれイベントを行うこととなっております。釧路市については、マーメイドくしろによる列車内での観光案内や、着ぐるみでのお見送りなどを実施することになっております。
- 7月下旬には、釧路湿原国立公園連絡協議会との共催により、釧路湿原こどもレンジャーを対象として、ノロッコ号に乗車して、釧路湿原や釧網線を学んでいただく体験会を予定しています。
- これらの様々な取り組みの中で、観光客のみならず、地域の住民の皆様に対しましても、ノロッコ号30周年の機運を盛り上げるべく、準備を進めているとこ

ろです。

- この「くしろ湿原ノロッコ号」につきましては、今までに約193万5千人の方にご乗車をいただいております、この30周年を機に、さらに皆様にご乗車いただきたいと考えているところであります。
- まだまだ、色々な企画をしているということで、内容が確定次第、改めて発表してまいりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

3. その他（1項目）

1. 統一地方選挙について

- 続いて、統一地方選挙についてです。
- 現在、北海道知事選挙と、北海道議会議員選挙を実施しているところであります、7日（日）の投票日を終えますと、14日（日）告示、21日（日）が釧路市議会議員選挙の投票日となっております。
- 釧路市の投票率は残念ながら数年、低めに推移しています。
ぜひ、投票率アップのこともありますが、地域のまちづくりと同様であると考えておりますので、多くの方に投票に行ってくださいと考えております。
- その中で、最近伸びております期日前投票を実施しているところであります。
期日前投票所につきましては、市役所本庁舎1階ロビーと阿寒・音別の両行政センター、阿寒湖まりむ館に開設しております。
他にも臨時の期日前投票所といたしまして、コア大空、コア鳥取、コアかがやきの3館にも開設いたします。
コア3館はそれぞれ3日間の開設ですが、今回の選挙から開設時間を延長し、これまで午前10時から午後5時までの開設時間を、午後6時まで1時間延長して開設いたします。
- バリアフリーも対応しているということで、ぜひ、お体の不自由な方等、投票所に行くことを迷っている方も、投票をお願いしたいと思っているところであります。
- 選挙管理委員会でも、若い人の選挙離れが多くなっている中、投票所へ足を運んでいただくためにも、色々な啓発を行っているところであります、しっかりとこの点もアップにつなげていければと考えているところであります。

4. 質疑要旨

（質問）

- ・ クレインズが、昨日廃部になったことにあわせて、運営会社を立ち上げ、釧路市を拠点にクラブチームを設立すべく、がんばっていきたいという発表がありましたが、そのような動きについて、市長はどのように受け止めておられるかお伺いしたい。

（市長）

- ・ 具体的な取り組みが進んできたということで、大変良かったと思っております。廃部の決定から、日本製紙の皆さんや工場長とお話をし、色々と情報等をいただ

いてきたところであります。

日本製紙さんも、選手の皆さんがプレーを続けていけるということが、一番重要なことであるとのお話をしておりました。

あわせて、この氷都釧路を拠点にしていくということも重要なことだと思います。これから正式に色々なお話を聞いていく中で、一緒になって進めていくことができると考えています。

(質問)

- ・ 運営会社が立ち上がったこともあり、市としてどのような支援ができるか、何か具体的なことがあれば教えていただきたい。

(市長)

- ・ これまでも、日本製紙クレインズとのネーミングライツの中でバックアップを進めてきたところであり、釧路がホームであるということで、色々と検討できると思っております。

まだ、正式にお話をいただいておりますので、今は各地域での取り組み等について、しっかりとまとめているところでもあります。まさしく、そのような意味では、釧路をホームに選手がしっかりプレーできることを考えていきたいと思っております。

(質問)

- ・ 市として、運営会社への出資や別で支援などは考えていますか。

(市長)

- ・ まだ、具体的に話が来ていない中で、どのような形ができるのかを考えてきました。

日光アイスバックスも、スタートの際には、出資という形で進めていたということもあります。

報道やコメント等の中で、ホームとして、しっかりとリンクや場所を確保していくというお話が出ており、例えば現在の「日本製紙アイスアリーナ」は、ホームとして使えるような環境を整えていくということもあると思っております。

そのようなことも踏まえた中で正式なお話を伺い、今、我々がどのようなことができるかというお話をさせていただき、しっかりとできることを行っていきたいと思っております。

(質問)

- ・ 市から、チームに財政的な支援をするという可能性はあるのでしょうか。

(市長)

- ・ 今まで、他の地域を見てきましても、継続的に進めているところはありません。しっかり残していくためのスポット的な対応になると思っております。

私どもとしては、チームを残すことはもちろん、釧路をホームとして進めていただきたいという思いがありますので、しっかりとしたホームを確保していくということもあります。

そのようになりますと、スポットではなく継続的な対応ということも出てきますので、状況を踏まえながら進めていこうと考えております。

情報としては工場長から伺っていたものの、詳細なお話については、まだ伺っておりませんので、可能性としてこのようなことも考えられると思っております。

(質問)

- ・ ホームの確保ということで、リンクの使用料については、クレインズ側が支払ってきたと思うのですが、例えば、そのような負担を軽減するために値引くとか、全く取らないといったことになるのでしょうか。

(市長)

- そういうことも含め、日光アイスバックスの例や、他市の例を見ながら、本当にどのような形が一番いいのかということになります。
選手がしっかりとプレーできる環境をといることを、日本製紙さんがおっしゃっておいりました。あわせて、釧路をホームにしていきたいという2つの点で話を進めていただいているので、私どもとして、色々と考えているところであります。

(質問)

- 新元号の発表があり、5月1日から「令和」になるということですがけれども、万葉集が出典となっているということで、率直な感想と受け止めについて、お伺いしたいと思います。
また、平成は、平和な時代でありましたが、未曾有の災害も発生しました。新しい元号の新たな時代を迎えるにあたり、どのような時代にしていきたいかなどのお話をいただきたいと思ひます。

(市長)

- 「令和」の意味であるとか、万葉集からの言葉というものについて、私は、メッセージ性みたいなものを感じております。
日本の歌の文化というものが、特権階級からではないというものが、まさしく万葉集といわれています。貴族階級もいながらも、庶民や防人も詠み人として入った形で作られた点が、やはり日本は世界と違う文化の進め方といえるのではないかと思います。世界のどこを見ても特権階級の中から文化が始まっている訳ですが、日本はまさに、この歌という文化が進んできたということがあります。
まさしく世界の中の日本は、色々な形の中で、常に世界の動向を踏まえながら、進めていかなければいけない。それは必然な訳でありますけれど、そのような時に、日本の歌の文化の万葉集から出典されているということは、しっかりと日本の歴史を踏まえた中で進めていくということが重要なことだと思ひており、自分なりに受け止めているところであります。
その上で、やはり常に、プラス成長といったものを目指していくことが重要だと考えているところであります。
そのためには、地味ではあっても、ベーシックな、オーソドックスな政策、雇用ですとか、地元のそれぞれの企業のプラス躍進ということでもありますけれど、このようなことを行政体と一緒に連携しながら進めていくことが重要なことであり、しっかりと地に足がついた施策を邁進していくということが、まさに重要な時であると考えており、そのような思いで、新元号の方を受け止めさせていただいたところであります。